

玉村町教育委員会点検・評価報告書【概要版】令和2年度対象

＜学校教育のめざす子供像＞

確かな力を身に付け 心豊かに たくましく生きぬく子供
～幼小中12年間を見通した学校教育の充実～

重点1 「自立する力」と「共生する力」を育む教育活動の充実

日々の授業改善と教師力の向上

群馬県教育委員会作成『はばたく群馬の指導プランⅡ』や玉村町教育研究所作成『玉村町のキャリア教育～実践編～』を活用した授業改善を推進しました。授業における「めあて」の提示や「まとめ・振り返り」を実施したり、子供の考えを生かした授業を展開したりすることで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に近づけました。

また、授業公開が中心となる『教職員研修会』を年間9回開催しました。新型コロナウイルス感染症予防に配慮してオンライン形式での開催となりましたが、町内教職員間で授業実践について学び合うことができました。

子供に寄り添う指導

群馬県教育委員会作成『SOSの出し方プログラム』に基づいた授業を実施し、子供は悩みを身近な人に打ち明ける大切さや相談の仕方、共に支え合うことの必要性を理解することができました。また、学校や学級の満足度を調べるために「Q-U検査」を全小中学校で実施し、結果をもとに、個人や学級全体の状況を把握し、温かな学級づくり、学校づくりを進めることができました。



重点2 地域とともにある学校づくり

「地域人材」を活用した学習支援の充実

コロナ禍により年度当初に計画した「地域人材」を活用した学習を全て実施することができませんでしたが、感染症対策を十分に講じながら、「何ができるか」を各小中学校・園で考えました。地域の方々や県立女子大学生等の協力を得ながら、読み聞かせや日本語指導支援、放課後学習支援等を実施したことで、子供の主体的な学びにつながりました。

「地域を学ぶ」「地域で学ぶ」「地域に学ぶ」学習の推進

玉村町教育研究所で作成した学習モデルプランに沿って学習した成果を地域や他校に発信しました。児童が音楽の授業で作ったお囃子を地域の方々に披露したり、インターネットを通じて中学生が小学生に英語で自校の様子を伝えたりすることを通して、玉村町の良さを再確認することができました。



重点3 教育環境の充実・整備

ICT環境の拡充

小中学校に児童生徒用タブレットパソコンを新たに2210台購入し、既存の機器と合わせることで、1人1台環境の実現及び校内LAN環境を強化しました。また教育委員会のサーバーを経由せずに学校から直接インターネットに接続するためのセキュリティー機器を各小中学校に設置し、セキュリティーを強化することで、児童生徒、教職員が安心して使用することができています。

栄養教諭を活用した食育の充実

新型コロナウイルス感染症に伴い、臨海学校や修学旅行等が中止または縮小となっていました。そこで、児童生徒からのリクエストに応え、臨海学校でのメニューを再現したり、修学旅行先での食事をイメージした献立給食を提供しました。児童生徒は給食を通して、現地の雰囲気を味わうことができました。



＜令和2年度 教育行政方針＞

令和2年度 玉村町の教育

玉村町教育委員会

(教育行政方針)

夢叶える教育のまち たまむら

基本目標 心豊かな人材を育み、郷土の歴史・文化を大切にすまち

(第5次玉村町総合計画)

基本理念 ○全ての町民が夢と希望をもって理想を追求することができるよう、社会の変化に対応した教育を実践する。
○家庭・学校・地域がそれぞれの役割を果たし、相互に連携・協働した教育を実践する。

(玉村町教育大綱)

基本方針 全ての教育(家庭教育・学校教育・社会教育等を含む)において

- 「生きる力」を育み、社会の変化に主体的に対応できる人を育成する。
- 一人一人が生徒活躍できるよう、自己を磨き、共に学ぶ環境をつくる。

(玉村町教育大綱)

令和2年度 方針 教育の原点を見つめ、本質を見極めた改革

よりよく生きるために

『自立』
『共生』

自己実現

＜1年間の点検・評価の流れ＞

1学期

- ・年度始学校園訪問
- ・社会教育委員会、企画展

2学期

- ・教職員研修会、要請訪問
- ・特別展

3学期

- ・年度末学校園訪問、ミニ企画展
- ・自己評価、外部評価、令和3年度教育行政方針策定



＜生涯教育のめざす人間像＞

学ぶ喜びを味わい 自己を磨き 豊かに生きようとする人
～生きがいと絆をつくる生涯学習の推進～

重点1 生涯学習の推進 芸術・文化活動、鑑賞機会の充実

優れた文化芸術に親しむ機会を提供するため、絵本原画展を開催し、色の鮮やかさや細かい筆遣いなど本物の文化芸術に触れる場としました。子供から大人まで文化芸術に対する意識や知識、感性を磨く場になり、人生の学びのきっかけづくりにもなりました。

本年度は「きょうりゅう」をテーマにした展示を行いました。来場者からは「本物に触れられ、とても良かった」などの感想をいただきました。



重点2 文化財・地域資源活用の推進

埴輪作り体験教室

新型コロナウイルス感染症対策を十分に図り、夏休みに小学生を対象とした「埴輪づくり教室」「勾玉づくり教室」「アングイン編み教室」を開催しました。

「埴輪作り教室」では、参加者は手が粘土まみれになりながらも、埴輪を形作るための「輪積み」の難しさを体験していました。

3時間を超える長い時間の教室になりましたが、参加者は飽きることなく、オリジナリティあふれる埴輪を完成させることができました。



重点4 芸術・文化活動の推進

季節の読み聞かせ

新型コロナウイルス感染症に伴い、大勢の人数が集まる講座を開催することができませんでした。

警戒度が下がっていた12月に読み聞かせボランティアの方々に協力していただき、冬の読み聞かせ会を実施しました。

参加した親子からは「久しぶりの読み聞かせ会で楽しかった」という感想を数多くいただきました。



重点3

青少年の健全育成

Tamamura English Camp

少年少女教室の一つとして、群馬フェリーチェ学園と町内中学校のALTを講師に迎え、「Tamamura English Camp えいご村 英語で！？レクリエーションにチャレンジ」を夏休みに開催しました。

講座中の会話は全て英語で自己紹介や宝探し、散策などを行いました。参加者ははじめは戸惑い、恥ずかしがる雰囲気でしたが、講座が進むにつれ和やかな雰囲気に包まれ、最後は笑顔で終了しました。



重点5

生涯スポーツの推進

スポーツ教室や大会の開催

町民の体力向上と健康の保持推進を図り、町民が一体となり明るく豊かな町づくりを目的に町民陸上教室、町内対抗軟式野球大会を新型コロナウイルス感染症対策を徹底して開催しました。

町民陸上記録会では、町内小中学生36名が参加し、日頃の練習の成果を十分に発揮しようと、精一杯頑張っていました。

